



聖地と文学 聖なる場所の想像力

12/2 日

講座1 13:30~15:00 受講料:5,400円(各回2,700円)
講座2 15:15~16:45 事前申込制

申込詳細は裏面をご確認ください 定員に達し次第申込を締切ります

宮沢賢治は『春の修羅』の中に収めた詩篇「小岩井農場パート九」の中で、農場のある地点を「der heilige Punkt」、すなわち「聖なる地点」と言っていますが、古来、聖なる場所は、シャーマンや芸術家や宗教家にさまざまなインスピレーション(靈感・直観)を与えて来ました。

今回は、その場所が人間の想像力に大きなインパクトを与えて、文学的詞章や宗教的思想を生みだすさまを検証してみたいと思います。

講師：鎌田 東二

上智大学グリーンケア研究所特任教授



講座1 西行と定家と芭蕉を中心に

「俳聖」と呼ばれる松尾芭蕉(1644 - 1694)は西行(1118 - 1190)を大変尊敬していました。そこで西行500回忌に当たる1689年(元禄2年)に西行の足跡を慕って『奥の細道』の旅をしていきます。まず、その芭蕉と西行の旅・道行と歌詠と吟行との関係を見ていきます。その際、西行と藤原定家(1162 - 1241)との関係と対照性を見つつ、彼らの場所の感覚を考察していきます。

講座2 ゲーテとイエーツと宮沢賢治と石牟礼道子を中心に

ゲーテとイエーツと宮沢賢治と石牟礼道子は極めてデリケートで深い「聖地感覚」を持っていました。ゲーテの聖地感覚は「花崗岩」と題するエッセイや『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』などによく表されています。宮沢賢治の「聖地感覚」は心象スケッチ「小岩井農場」「東岩手火山」や童話「龍と詩人」などに、石牟礼道子のそれは『苦海浄土』に表現されています。彼らの聖地感覚とそこから得られたインスピレーションと作品を考えていきます。

上智大学大阪サテライトキャンパス

大阪市北区豊崎3丁目12番8号 サクラファミリア(カトリック大阪梅田教会) 2階
電話：06-6450-8741 FAX：06-6450-8742 開室時間：平日10:00~18:00

- ・大阪メトロ御堂筋線「中津駅」4番出口より徒歩3分
- ・阪急「梅田駅」茶屋町口より徒歩4分
- ・JR「大阪駅」御堂筋北口より徒歩10分

※駐車場はございません。公共交通機関でお越しください。



